



山下 良則

リコー  
取締役社長執行役員CEO

経済同友会 つながる▶▶

## リレートーク #228

# 米国の光と影から 何を学ぶのか



鈴木 和洋

シスコシステムズ  
専務執行役員

この数カ月間で一番衝撃を受けたのは、やはり米国の大統領選挙です。米国の抱える「影」の部分<sup>①</sup>を再認識させられたというべきでしょうか。私自身、30年以上も米国企業に在籍しながらこの「影」の部分に気付いていなかったのは、幸運にも成長分野であり、イノベーションをけん引してきたIT産業に従事してきたため、「光」の部分しか見えていなかったということなのかもしれません。

米国のイノベーションは移民が起こしてきたといっても過言ではないと思います。Apple、Google、Facebook等、今をときめくエクセレント・カンパニーは、移民の一世、二世が創業し、多様化を積極的に受け入れ、世界中の優秀な人材を引きつけ、イノベーションを先導してきた米国の生んだ傑作といえます。しかし一方では、それが勝者と敗者を生み、結果として格差を拡大する要因となり、米国社会に深刻な「影」を落としていることは、今回の大統領選挙を見ても明らかです。

イノベーションを語るときに、日本が米国に学ぶべき点は多いと思いますが、逆に米国が日本に学ぶべきこともたくさんあると思っています。その一つは「社会との共生」です。売り手、買い手だけではなく世間(社会)よしの考え方が、100年以上存続している企業が世界で最も多い日本の礎になっています。現場へのリスペクト、自分の利益にならなくても会社のためという精神があるのです。また、日本はダイバーシティやインクルージョンにおいて世界から遅れているという指摘は多いのですが、一方では多様な思想や宗教が争いもなく共存している、世界でも類を見ない社会を形成しています。また歴史を紐解くと、海外から入ってきたものをうまく「調和」して日本に根付かせ、さらに世界的に成功させた製品・商品は数多くあります。

つまり、「先人たちはやってきた、やればできる」ということだと思っています。

もちろん欧米から学ぶことは重要ですが、オープンイノベーション、デジタルトランスフォーメーションといった、さまざまなコンセプトに踊らされる前に、今一度「なぜ自分の企業が長期にわたって存続し得たのか」「そこで育んだ強みは何だったのか」と足元を見直すことで、「忘れていた何か」が見つかるかもしれません。IoTもAIも、それ自体は「手段」にすぎないわけですから。

### ▶▶ 次回リレートーク

中野 祥三郎

キッコーマン  
取締役常務執行役員